

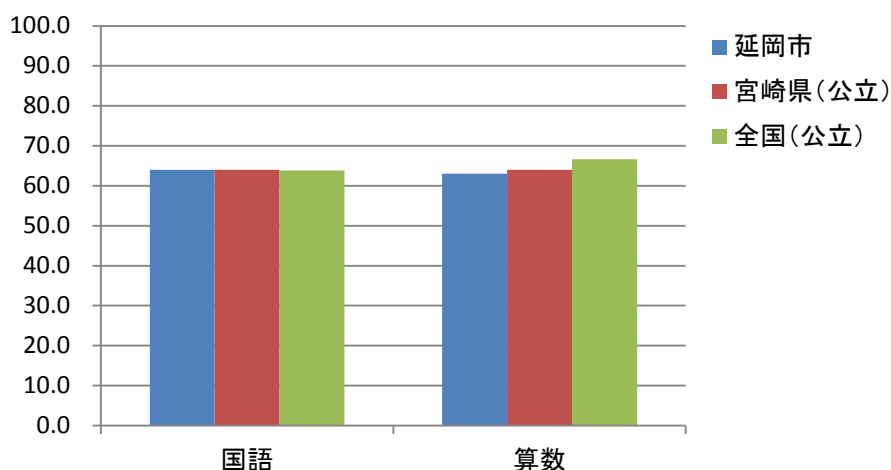
平成31年度（令和元年度）「全国学力・学習状況調査」 延岡市の調査結果について（小学校）

延岡市教育委員会

※ 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であります。
「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査に関する実施要項」（文部科学省）より

1 平均正答率の状況

※平均正答率 … 個人の正答率（全設問における正答数の割合）を足し合わせ、児童の人数で割った値



【全体の傾向】

延岡市の児童の平均正答率と全国の平均正答率を比べますと、国語では、全国をやや上回っており、望ましい傾向にあります。算数では、全国を下回っており、課題が見られます。

領域で比べますと、国語では、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全国平均を上回っています。算数では、「量と測定」、「数量関係」において、全国平均を下回っています。

無解答率は、国語、算数ともにすべての問題において、全国平均以下になっています。

調査問題の解答時間について、国語では7割以上、算数では8割以上の児童が、「時間が余った」「ちょうどよかった」と答えています。

2 各教科の状況

【国語】

○ 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」、「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」に関する問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っています。

● 「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」、「目的に応じて、質問を工夫する」に関する問題で、課題が見られます。

【算数】

○ 「長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ」に関する問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っています。

● 「二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述する」、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする」に関する問題で、課題が見られます。

3 児童質問紙調査の状況

【将来について】

「将来の夢や目標を持っている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【生活習慣について】

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている」、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学習習慣について】

「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」、「学校の授業時間以外に普段、1日当たり1時間以上読書をする」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【学校生活について】

「学校に行くのは楽しい」、「学校のきまりを守っている」、「人が困っているときは、進んで助けている」、について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【地域・社会への関心について】

「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」について、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均より高いことがわかりました。

4 学校質問紙調査の状況

【指導について】

「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている」、「平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【研修について】

「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている」、「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。

【家庭・地域との連携について】

「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している」、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている」について、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均より高いことがわかりました。